

12月24日～1月6日 商品検査実績

●微生物検査 61 検体

店舗新規商品において、「日配」1商品が大腸菌群にて、また、「日配1商品」が一般生菌数及び大腸菌群にて自主基準不適合となったことから取扱いをしないこととしました。

●理化学検査 53 検体

食品添加物検査	24 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	今週は実施していません。	
簡易農薬検査	22 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
P C R 検査	畜種判別検査	今週は実施していません。
	GMO検査	今週は実施していません。
	米のDNA異種米判定	今週は実施していません。
	コシヒカリ品種判定	今週は実施していません。
米鮮度判定	今週は実施していません。	
卵鮮度判定	今週は実施していません。	
アレルゲン検査	今週は実施していません。	
ヒスタミン検査	5 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アフラトキシン(カビ毒)	今週は実施していません。	
クドア(養殖ヒラメ寄生虫)	今週は実施していません。	
放射性物質検査(スペクトロメータ※①)	2 検体(野菜 1 検体、果物 1 検体)実施しました。全て検出下限値(約 20Bq/kg)以下となりました。	
放射性物質検査(サーベイメータ※②)	今週は実施していません。	

- ・ヒスタミン検査=ヒスタミンによる食中毒は、アレルギー様食中毒の一つであり、鮮度の低下したマグロやカツオ、サバなどの赤身魚やその加工品が原因となることが多いため、検査でヒスタミンの濃度を測定します。
- ・アフラトキシン=アスペルギルス属の一部のカビが産生するカビ毒で肝臓がんの原因の一つと考えられています。アフラトキシンが作られる最適条件は、温度 30℃前後、湿度 95%以上であるため、高温多湿の熱帯地方等が最も適しています。輸入食品の安全性に関わるため、日本では、輸入時に行う抜き取りのカビ毒検査やカビそのものが生育していないか外見上の検査を実施しています。なお、日本国内で、食品にアフラトキシン汚染が起きる可能性は低いものと考えられています。

※①NaI シンチレーションスペクトロメータ: 遮蔽体付検査機器しよへいたいで核種を特定できるもの: ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 を測定

※②NaI シンチレーションサーベイメータ: 遮蔽体無ししよへいたいの持ち運びできる機器: ガンマ線総量を測定